



Title	The Effect of Chemotherapy on Stroke Risk in Cancer Patients
Author(s)	北野, 貴也
Citation	大阪大学, 2021, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/82072
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

論文内容の要旨
Synopsis of Thesis

氏 名 Name	北野貴也
論文題名 Title	The Effect of Chemotherapy on Stroke Risk in Cancer Patients (がん化学療法が脳卒中リスクに与える影響)
論文内容の要旨 〔目 的(Purpose)〕 がん患者は、脳卒中リスクが高いことが知られており、がん患者で脳卒中リスクが高い原因としてさまざまな機序が提唱されている。化学療法中に脳梗塞を発症した症例の報告は多数あり、化学療法はがん関連脳卒中の原因の一つとして注目されているが、これまで詳細な検討はなされていなかった。そこで我々は、がん患者において化学療法が脳卒中リスクに与える影響を検討した。 〔方法ならびに成績(Methods/Results)〕 当院の院内がん登録に2007年から2015年の間に登録された患者のうち、19006例を対象として後ろ向きコホート研究を行った。脳卒中の発生は、電子カルテ情報を用いる検証済みアルゴリズムを用いて同定した。がん診断後2年間以内に抗がん化学療法を受けた患者を化学療法群、それ以外を非化学療法群として、傾向スコアによる逆確率重み付けを用いて脳卒中リスクを比較した。 31%の患者が化学療法群であった。2年以内の脳卒中は化学療法群の44例（0.75%）、非化学療法群の51例（0.39%）に生じた。調整前には、化学療法群は脳卒中リスクが高かった（HR 1.84; 95% CI 1.23-2.75）が、がんの部位およびステージで調整すると有意な差は認められなかった（HR 1.20; 95% CI 0.76-1.91）。 〔総 括(Conclusion)〕 我々のコホートにおいて、化学療法を施行された患者の脳卒中リスクが高かったのは、おそらくは化学療法群のステージが進んでいたからであった。 分子標的薬以外の化学療法は、脳卒中リスクに大きな影響を与えないのかもしれない。	

論文審査の結果の要旨及び担当者

(申請者氏名) 北野貴也		
論文審査担当者	(職)	氏 名
	主 査	大阪大学教授 望月 秀樹
	副 査	大阪大学寄附講座教授 佐藤 太郎
	副 査	大阪大学教授 青島 晴彦

論文審査の結果の要旨

がん患者は、脳卒中リスクが高いことが知られており、がん患者で脳卒中リスクが高い原因としてさまざまな機序が提唱されている。化学療法中に脳梗塞を発症した症例の報告は多数あり、化学療法はがん関連脳卒中の原因の一つとして注目されているが、これまで詳細な検討はなされていなかった。そこで本研究は、がん患者において化学療法が脳卒中リスクに与える影響を検討した。

大阪大学医学部附属病院の院内がん登録に2007年から2015年の間に登録された患者のうち、19006例を対象として後ろ向きコホート研究を行った。脳卒中の発生は、電子カルテ情報を用いる検証済みアルゴリズムを用いて同定した。がん診断後2年間以内に抗がん化学療法を受けた患者を化学療法群、それ以外を非化学療法群として、傾向スコアによる逆確率重み付けを用いて脳卒中リスクを比較した。31%の患者が化学療法群であった。2年以内の脳卒中は化学療法群の44例（0.75%）、非化学療法群の51例（0.39%）に生じた。調整前には、化学療法群は脳卒中リスクが高かったが、がんの部位およびステージで調整すると有意な差は認められなかった。本研究は、学位の授与に値すると考えられる。